



## 海老原誠治 (えびはら せいじ)

いただきます.info事務局、三信化工株式会社、資源と環境と教育を考える会『エコが見える学校』、女子栄養大学短期大学部非常勤講師、元関東学院大学非常勤講師。和食器を用いた出前授業や、テレビ局の撮影クルーの経験を生かして動画作成の研修会の講師も務める。

# 世界の車窓から… 窓越しの撮影法

## ▶ 窓越しに撮影する

電車や車の車窓から風景を撮ることはありますか？ すぐスマートホンが開かなかったり、あるいは窓の汚れが気になっていたりして撮り損ねることが少なくないと思います。筆者は比較的いろいろな乗り物から写真を撮りますが、飛行機で長野県上空を飛んだ時に、非常にきれいに中央構造線が見えたことに、強い衝撃を受けました（写真下）。

月並みですが、大地を裂くような、真っすぐな筋が、地図ではなくて、肉眼で観察できるのです。地理や風土の違いによって食文化も、丸餅や角餅など、関東と関西でさまざまな違いがあります。新潟食料農業大学の学長コラムでは、「東のサケ、西のブリ」とお正月用「年取り魚」や、「北馬西牛」と輸送・荷役・耕作において牛・馬



▲中央構造線に沿い、きれいに見える直線谷。北から南への眺め。右手が長野県飯田市・天竜川。

のいずれが多いか、比較事例を挙げています。この構造線が文化を隔てる目安だという意見もうなづけます。

さて飛行機の窓は雨などで結構汚れていて、また小さく、二重にもなっているため、機内からの撮影には決して適していませんが、それでも結構写るものです。10月号でも紹介しましたが、ガラス越しでもレンズを極力近づけることでそれなりに撮影できます。ガラスとの距離を狭めることで、余分な写り込みを避けることができますが、別にもう一つ、レンズに由来する理由があります。

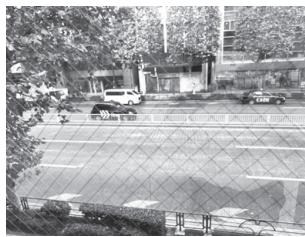
## ▶ 被写界深度を利用する

カメラのレンズはどれであっても、レンズに極端に近いものはピントが合わずボケてしまい、多少小さいゴミの場合でも、ボ



▲中央構造線：九州四国を経て、長野の諏訪湖にいたり、東に折れる断層。新潟の糸井市からほぼ南に走る断層が、糸魚川静岡構造線。二つの断層は、諏訪湖で交わる。

引用：[https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Tectonic\\_map\\_of\\_southwest\\_Japan.png](https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Tectonic_map_of_southwest_Japan.png)



▲ガラスから離れた撮影。  
金属ワイヤーがはっきり見える。

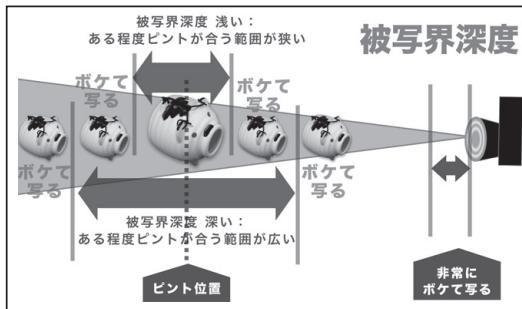


▲ガラスから少し離れた撮影。  
金属ワイヤーがはっきり見える。



▲ガラスに密着した撮影。画面中央を横切  
っている金属ワイヤーはほぼ見えない。

図1 被写界深度（ピントが合う範囲）



▲ごみ取りネットなしで撮影。



▲ごみ取りネット2枚重ねて撮影。  
霧がかかっているような印象。



▲ごみ取りネット4枚重ねて撮影。  
さらに霧が濃くなったような印象。

ケが多いため、少し曇ったようにしか見えなかつたり、場合によっては全く気づかないほどまで薄いボケになります（いくらレンズに近くても、大きな障害物は光を通さないので、ピントが合わずに、ただ暗いだけの写りになる）。

レンズのピントを合わせたとき、撮影対象となる被写体だけでなく、その周囲にもある程度ピントが合います。逆にいえば、ピントを合わせた対象から大きく離れたものに関しては、離れるほどピントが合わなくなります（図1）。この原理は「被写界深度」といわれますが、これを利用した2つの撮影技術があります。

1つ目は、メッシュの入ったガラス越しなどであっても、ガラスに極限に近づけることにより、メッシュの金属ワイヤーがボケてしまい、ある程度撮影できる技術です。冒頭で紹介した車や飛行機のガラス越しの撮影で、汚れが目立たないのもこれと同じ原理です。

2つ目は、あえてメッシュなどをかぶせ、霧の中のような、柔らかいソフトな印象に仕上げる技法です。「ソフトフォーカス」といって、昔の撮影では、理想の女性・男性の登場シーンや花の撮影などでよく使われていました。夢の給食の登場等でも使えるかもしれません。